

現代中国語に見られる日本語由来の外来語彙に対応する ドゥンガン語の語彙に関する一考察¹⁾

犬塚 優 司

1.

本稿の目的は、中国語普通話に流入した日本語由来の外来語²⁾の語彙をドゥンガン語³⁾ではどのように表現しているかを明らかにし、語彙面から見たドゥンガン語の変遷の一端を明らかにするものである。

ドゥンガン人たちは、1878 年以来、数度に分かれて故地である中国西北部の甘肅、陝西、寧夏等を離れ、現在の中央アジア諸国に移り住み、最も遅く移動したのは、1884 年とされている⁴⁾。その後、「歴史的な原因により中国内地との直接の連絡と交流がとても少なかった」ために、ドゥンガン語は「国外で 100 余年独立して発展した」ものである⁵⁾。

一方、1895 年日清戦争に敗れた清国政府は、日本において西欧の科学技術や文化を学ぶために、1896 年以降、多くの留学生を日本に派遣し、日本で翻訳された漢字で記された西欧の科学技術や文化に関する語彙が大量に中国に流入することになる⁶⁾。もちろん、1896 年以前にも、日本を紹介する著作があり、日本語の語彙が紹介されている。たとえば、1854 年の羅森『日本日記』、1877 年の何如璋『使東述略並雜詠』や 1890 年の黄遵憲『日本国志』などがある⁷⁾。しかし、多くの日本と由来の外来語が中国に流入したのは、1896 年以降と考えられる。

したがって、ドゥンガン人たちは、基本的に日本語由来の外来語を知らなかったと考えられる。

では、中国語普通話に流入した日本語由来の外来語の語彙をドゥンガン語では、どのように表現しているのだろうか。

2.

中国語普通話に流入した日本語由来の外来語については、刘正琰、高名凱、麦永乾、史有为 (1984)《汉语外来语》(上海辞典出版社)に日本語由来であるとの注記がある 878 語を対象とした⁸⁾。

ドゥンガン語については、海峰（2003）《中亚东干语言研究》（新疆大学出版社）の「附録一 東干語常用詞彙表」（pp.211-416）及び「附録三 東干語常用俄語借詞詞彙表」（pp.432-441）を用いた。「附録一 東干語常用詞彙表」には、「本語彙表は、IO・ヤンシャンシン『簡明東干語ロシア語辞典』（フルンゼ，1968年）及びM・イマゾフ『回族語言的写法話典』（フルンゼ，1988年）の基礎の上に本人が調査収集した一部の語彙を加えて、整理して作成した」という説明がある⁹⁾。また、「附録三 東干語常用俄語借詞詞彙表」にうちでは、「本語彙表は主に作者本人がドゥンガン語の言語資料とフィールドワークの中で収集して来たものであり、一部はIO・ヤンシャンシン『簡明東干語ロシア語辞典』（フルンゼ，1968年）から収集している」と説明がある¹⁰⁾。

対象とした 878 語のうち、53 語が海峰の「東干語常用詞彙表」及び「東干語常用俄語借詞詞彙表」に含まれていた。なお、53 語のうち、5 語はそれに対応するドゥンガン語の語が二つあった。

「東干語常用詞彙表」には、35 語（うち 2 語は二つのドゥンガン語の語がある）含まれていた。対象とする語の漢字表記と海峰が示したドゥンガン語の漢字表記一致するものを日本語由来の外来語とした。ただし対象とする語の漢字表記とドゥンガン語の漢字表記が一致しないがその漢字表記がやはり対象とする語彙に含まれていた「文化 wénhuà」（ドゥンガン語は「вынмин 文明」）もこれに含めた。ロシア語由来であることが注記されていた 1 語（吨 dùn）の対応語については、「ロシア語由来の外来語」とした。アラビア語由来であることが注記されていた 2 語については、「アラビア語由来の外来語」とし、ウイグル語由来であることが注記されていた 1 語については、「ウイグル語由来の外来語」とした。それ以外の語は「ドゥンガン語固有の語」とした。

「東干語常用俄語借詞詞彙表」には、20 語含まれていた。これらは、全て「ロシア語由来の外来語」とした。

以下、語は、第一に中国語の漢字による表記、第二にピンインによる表記、第三にドゥンガン語のキリル文字表記、第四にその漢字表記を示した。ただし、「東干語常用俄語借詞詞彙表」には漢字表記が示されていないため、第四の漢字表記は示さない。

53 語のうち、次の 12 語は、ドゥンガン語固有の語を用いて表していた。

法律 fǎlù	вонфа 王法
广场 guǎngchǎng	чонзы 场子
结核 jiéhé	лобин 癆病(肺結核)
铅笔 qiānbǐ	гэран 改兰
现金 xiànjīn	щүанчян 现钱

消化 xiāohuà	кихуа 克化
选举 xuǎnjǔ	жянщүан 拣选
意义 yìyì	чин-ю 情由 ¹¹⁾
债务 zhàiwù	зэ 债
直接 zhíjiē	дуандуар 端端儿 дуанжызы 端直子
组织 zǔzhī	чуанлян 串联
作者 zuòzhě	щежя 作家

なお、「王法 wángfǎ」、「场子 chǎngzi」、「痨病 láobìng」、「现钱 xiànrqián」及び「债 zhài」は中国語普通話にも同様の意味を表す語である。また、「拣选 jiǎnxuǎn」は中国語普通話では「選択する」という意味を表す語であり、「情由 qíngyóu」は「事件の内情」という意味を表す語であり、「串联 chuànlián」は「連絡を取り合う」という意味を表す語である。

海峰(2003)は、中国語西北方言と共通の語として「дуандуар 端端儿」と「дуанжызы 端直子」を取り上げている¹²⁾。「кихуа 克化」について、海峰(2003)は「古語」であると指摘している¹³⁾。また、「щежя 作家」については、海峰(2003)は、「新語」すなわちダウンガン人の創造した語であると指摘している¹⁴⁾。

「改兰 gǎilán」については、ロシア語「карандаш (鉛筆)」に由来するものかもしれないが、海峰の注記がないため、ここに含めておく。今後の調査が必要である。

次の 21 語は、日本語由来の外来語が用いられている。「文化 wénhuà」を除き、同じ語である。

代表 dàibiǎo	дэбё 代表
电报 diànbào	дянбо 电报
电话 diànhuà	дянхуа 电话
法律 fǎlǜ	фалу 法律
化学 huàxué	хуашүэ 化学 ¹⁵⁾
简单 jiǎndān	жяндан 简单
讲演 jiǎngyǎn	жён-ян 讲演
交换 jiāohuàn	жёхуан 交换
经济 jīngjì	жинжи 经济
冷战 lěngzhàn	лынжан 冷战
目的 mùdì	муди 目的

批评 pīpíng	пипин 批评
评价 píngjià	пинжя 评价
社会 shèhuì	шэхуэй 社会
生产 shēngchǎn	сынцан 生产
条件 tiáojiàn	тёжян 条件
文化 wénhuà	вынмин 文明
文学 wénxué	выншүэ 文学
协会 xiéhuì	шехуэй 协会
运动 yùndòng	йүндун 运动
知识 zhīshí	жышы 知识

次の 21 語は、ロシア語由来の外来語である¹⁶⁾。

参观 cānguān	экскурсия
代表 dàibiǎo	депутат
地质学 dìzhìxué	геология
电报 diànbào	телевизор
电池 diànchí	батарея
吨 dūn	тон 唐 ¹⁷⁾
歌剧 gējù	опера
计划 jìhuà	план
吉他 jítā	гитара
教授 jiàoshòu	профессор
会计 kuàijì	бухгалтер
分析 fēnxī	анализ
手榴弹 shǒuliúdàn	граната
尉官 wèiguān	лейтенант
物理 wùlǐ	физика
宪法 xiànfǎ	конституция
心理学 xīnlǐxué	психология
医学 yīxué	медицина
原子 yuánzǐ	атом
杂志 zázhì	журнал
展览会 zhǎnlǎnhuì	ярмарка

次の2語は、アラビア語由来の外来語である。

时间 shíjiān	эзмани 再玛尼
知识 zhīshí	эрлан 尔林

次の1語は、ウイグル語由来の外来語である。

市场 shìchǎng	базар 巴扎尔
-------------	-----------

対象とした語について、一つの語に対応する語が二つ以上あったものは、次のとおりである。

「代表 dàibiǎo」と「电报 diànbào」については、日本語由来の外来語とロシア語由来の外来語の二つの語が示されている。

「法律 fǎlǜ」については、ドゥンガン語固有の語と日本語由来の外来語の二つの語が示されている。

「知识 zhīshí」については、日本語由来の外来語とアラビア語由来の外来語の二つの語が示されている。

「直接 zhíjiē」については、ドゥンガン語固有の語が二語示されている。

以上を集計すると、次の表のようになる。

ドゥンガン語固有の語	12語	22.4%
日本語由来の外来語	21語	39.6%
ロシア語由来の外来語	21語	39.6%
アラビア語由来の外来語	2語	3.8%
ウイグル語由来の外来語	1語	1.9%
合計	53語	

3.

対象とした語は、878語であるが、その中には、「榻榻米 tàtāmǐ (たたみ)」、「和服 hé fú (和服)」のような日本独特のものを表す語が122語ある。これらが、ドゥンガン語に流入するとは考えにくいだが、それ以外の語、たとえば「图书馆 túshūguǎn (図書館)」があると考える。しかし、使用した海峰(2003)の二つの語彙表に見出すことができなかった。したがって、ここでは、53語を考察の対象とした。

53語は、その大多数が西欧の科学技術や文化に関する語彙である。

ドゥンガン語固有の語が用いられているものが 12 語あった。海峰 (2003) が指摘しているように、中国語西北方言と共通の語、中国語普通話の語や中国語の古語が見られるが、更にドゥンガン人が独自に創造した語も 1 語見られた。新しく入ってきた概念について、自分たちが従来使っていた語によって表現できる場合は、それを用いることが多く、自らの言語によって新語を創造することは比較的少なかったものであると思われる。

ロシア語由来の外来語が、日本語由来の外来語とともに最も多く 21 語見られた。対象となった語は、近代化の過程で導入された西欧の科学技術や文化に関する語が多く含まれており、ドゥンガン人は、その科学技術や文化をロシア語から学んできたため、ロシア語由来の外来語が多く受け入れたことが理解できる。ロシア語由来の外来語に関して、橋本萬太郎 (1996) は、「政治的にはソ連邦に属するため、ロシア語からの借用語が多量にみられる。」と述べている¹⁸⁾。また、海峰 (2003) は、「ロシア語からの外来語は、ドゥンガン語の中で相当の数を占めており、特に書面語に多い。社会生活、政治生活と密接に関連した内容を表現する時ロシア語からの外来語が更に常用した。これらの借用語は(中略)東干語と今日の陝西甘肅方言を区別する一つの顕著な特徴である。」と述べている¹⁹⁾。

日本語由来の外来語も大変多く 21 語見られる。ドゥンガン語は、近年になるまで、中国語との交渉がほとんどなかったと考えられているため、中国語における日本語由来の外来語の多くは、ドゥンガン語においては、固有の語彙あるいはロシア語や中央アジアの諸言語からの外来語であると考えられたが、意外にも、中国語と同じく日本語由来の外来語がそのまま用いられるものが多く見られた。

それは、次のような理由が考えられる。

- 1) ドゥンガン人は中央アジア諸国へ定住後も中国との交流があった。
- 2) 近年の急速な中国人との交流の中で、これらの語彙を受け入れた。
- 3) ドゥンガン人が独自に日本語から語彙を受け入れた。
- 4) これらの語彙は日本語由来の外来語ではなく、ドゥンガン人が中央アジアへ移動する以前から中国語に存在した。
- 5) これらの語彙は早い時期に中国語に受け入れられ、ドゥンガン人が中央アジアへ移動する時点で、彼らはこれらの語彙を使用していた。

1) の理由は、一般に伝えられているドゥンガン族の歴史から考えて、定住後 1950 年代までに、ドゥンガン人が中国国内と何らな交流があったということは、あり得ないと思われる。しかし、文化的なチャンネルがどこかにあったかもしれない。たとえば、民国時代、中国の知識人が旧ソ連に留学していたとき、モスクワなどの地でドゥンガンの知識人と付き合いがあった可能性は検討する価値がある。

2) の理由が、最も可能性が高い。海峰 (2003) に「一部の語彙は現代中国語の語彙から入っている」ため、ロシア語由来の外来語と中国語の単語が共存する状況にあるとして、химия “黒米亞” =хуашуэ “化学” (化学)、партия “帕爾提亞” =дон “黨” (黨)、паспорт “帕斯帕爾特” =хўжо “護照” (パスポート)、суд “蘇特” =фагуан “法官” (裁判官)、радио “拉吉窩” =вушяндян “无電綫” (ラジオ) の五組の例が示されている²⁰⁾。さらに「この中国語の語彙は多く 19 世紀末から 20 世紀初めに生まれた新語であり、ドゥンガン人は移住後に同じ概念を表現するためにロシア語の語彙を借用するしかなかった。しかし、50 年代初めから 60 年代に一群のイリの回族が移住してドゥンガン人のグループに加わり、彼らもまた自然にこれらの新語をもたらした。同時に、中ソ友好の時期、すなわち 50 年代初めから 60 年代初めに掛けてドゥンガン人の知識人も意識的にこれらの語彙の一部を受け入れるように提唱した。さらに近年ドゥンガン人と中国国内の漢族回族との行き来が日増しに頻繁となり、交際におおて便利なように中国語の語彙を転用している。それゆえこれもドゥンガン語語彙の発展における一種の『回帰』現象と言うことができるだろう。」と述べている。海峰 (2003) が調査収集した 2000 年当時は、すでにドゥンガン人と中国人の交流が広く行われており、そのために海峰 (2003) が収集した語彙の中にこれらの語彙が多く含まれていたものと考えられる。

ただし、旧ソ連が中国との人的交流が活発になったのは、1980 年代末からであり、海峰が現地調査を始めた 2000 年までの約十年間に、西欧の科学技術や文化に関する語彙が、ロシア語由来の外来語から中国語普通話に含まれている日本語由来の外来語に置き換わったことになる。また、ある語が他の語に置き換わる場合、強制的な置き換えでなければ、二つの語が併存して使用される期間が相当期間存在するはずである。ところが、海峰 (2003) には、そのような例として、「химия “黒米亞” =хуашуэ “化学” (化学)」と「депутат=дэбё 代表 (代表)」の二組しか挙げられていない。これらのことから、語の置き換えにかかる期間が非常に短いのではないかと考える。

3) の理由は、全くゼロではないと思うが、日本人とドゥンガン人たちの交流の歴史を考えると、可能性は極めて低いと言える。

4) の理由は、これまでの中国語外来語研究の成果から考えて、受け入れられないものである。ただし、千葉謙悟 (2010) は、19 世紀初めから 20 世紀初めにかけて、イギリス人宣教師ロバート・モリスン (1782 - 1835) などの来華外国人や彼らの協力者である中国人によって多くの「翻訳語」が創造され、その「翻訳語」を、日本人が沿用しているものがあると述べており、対象とした日本語由来の外来語にもそれが含まれている可能性がある。

5) の理由は、全くゼロであると否定できないが、可能性は極めて低いと言える。

このように、日本語由来の外来語が多いのは、近年の急速な中国人との交流の中で、これらの語彙を受け入れたからであるとするのが、最も可能性が高いと考える。ただし、ド

ウンガン人は中央アジア諸国へ定住後も中国との交流があった可能性も考慮しなければならないだろう。

アラビア語由来の外来語について、海峰（2003）は中国国内の回族の言語的特徴であり、ドゥンガン語はその特徴を継承したものと考えている²²⁾。とすると、これはドゥンガン語固有の語と考えることができる。

ウイグル語由来の外来語も1語含まれているが、キルギス語、カザフ語、ウズベク語などのチュルク系諸言語由来の外来語が見当たらない。これは、対象となった語は、近代化の過程で導入された西欧の科学技術や文化に関する語が多く含まれており、ドゥンガン人は、その科学技術や文化をロシア語から学んできたため、ドゥンガン人が住み着いたキルギス、カザフスタン、ウズベキスタンのトルコ系諸民族の言語由来の外来語が含まれていないのであると考える。

4.

以上のように、現代中国語に見られる日本語由来の外来語語彙に対応するドゥンガン語の語彙は、主にロシア語由来の外来語、日本語由来の外来語、ドゥンガン語固有の語で表現されており、わずかではなるが、アラビア語、ウイグル語由来の外来語で表現されるものもあったことが明らかになった。

この事実とドゥンガン族の歴史を総合すると、ドゥンガン語の語彙史において、次のような起こっていたと考えることができる。

ドゥンガン人が中央アジア諸国に定住した時点では、西欧の科学技術や文化に関する語彙をほとんど持っていなかったが、定住後ロシア語を通して西欧の科学技術や文化を学び、大量のロシア語由来の外来語を受け入れた。1980年代末に中国国内との交流が活発化すると共に、大量の中国語普通話の語彙を受け入れたが、その中には多くの日本語由来の外来語が含まれていた。

この仮説を検証するためには、HO・ヤンシャンシン『簡明東干語ロシア語辞典』（フルンゼ、1968年）及びM・イマゾフ『回族語言的写法話典』（フルンゼ、1988年）の語彙を検討すること、これらの語彙のドゥンガン語における初出を調査することが必要になると考えるが、これは今後の課題としたい。

また、1980年代末以降、なぜロシア語由来の外来語が急速に中国語普通話の語に置き換わっているのか、これに関しても検討しなければならない課題であると考えられる。

注

- 1) 本稿は、2015年11月7日明海大学で開催された日本ドゥンガン研究会第4回例会において発表した「ドゥンガン語のいくつかの語彙に関する考察——中国語普通話の語

彙と比較して」に加筆修正したものである。例会において多くの貴重なご意見を戴いた。この場を借りてお礼を申し上げる。

- 2) 中国語の外来語については、史有为 (2013) 参照。
- 3) ドウンガン族、ドウンガン語については、橋本萬太郎 (1996)、胡振华 (1999) 参照。
- 4) 海峰 (2003) , p.1。
- 5) 海峰 (2006) , p.146。
- 6) 史有为 (2013) , pp.78-79。
- 7) 史有为 (2013) , p.79。
- 8) 章一鸣、庐柏林 (1995) の付録「『漢語外来語詞典』所収日語借詞」を利用した。なお、日本語由来の外来語について、章一鸣、庐柏林 (1995) は、1. 音訳日語詞 (榻榻米など 3 語)、2. 日語固有詞 (茶道など 119 語)、3. 印欧音訳詞 (倶楽部など 28 語)、4. 印欧意識詞 (覇権など 541 語)、5. 意識漢語詞 (保険など 179 語)、6. 漢語回帰詞 (服用など 8 語) に分類している。
- 9) 海峰 (2003) , p.211。
- 10) 海峰 (2003) , p.432。
- 11) キリル文字表記中の“-” は混同しやすい音節の連続について、音節の切れ目を示す記号である。
- 12) 海峰 (2003) , p.117。
- 13) 海峰 (2003) , p.139。
- 14) 海峰 (2003) , p.120。
- 15) 海峰 (2003) にはロシア語由来の外来語として“химия 黒米亞”を挙げている。(p.154)
- 16) なお、下記の語については、単語の一部 (下線部) に対象となる語が含まれていたが、今回は考察の対象としなかった。

生产队 shēngchǎnduì	бригада
学位论文 xuéwèilùnwén	диссертация
资本 主义 zīběnzhǔyì	капитализм
共产主义者 gòngchǎnzhǔyìzhě	коммунист
机械师 jīxièshī	механизатор
博物馆 bówùguǎn	музей
课程表 kèchéngbiǎo	расписание
共和国 gònghéguó	резинублика
艺术家 yìshùjiā	художник
- 17) この語は、「東干語常用詞彙表」に含まれていて、ロシア語由来の注記があったものである。
- 18) 橋本萬太郎 (1996) , p.1411。

- 19) 海峰 (2003) , p.148。
- 20) 海峰 (2003) , p.154。なお、括弧内は、筆者による訳語である。原文のままである。
“хуашуә” は、「東干語常用詞語彙表」では“хуашуә” となっている。
- 21) 海峰 (2003) , p.154。
- 22) 海峰 (2003) , p.145。

参考文献

- 海峰 (2003) 《中亚东干语言研究》(新疆大学出版社)
- 海峰 (2006) 《中亚东干语的语言学价值》《新疆大学学报 (哲学人文社会科学版)》Vol. 34, No. 4, pp.146-149)
- 橋本萬太郎 (1996) 「東干語」(亀井孝、河野六郎、千野栄一編『言語学大辞典』第6巻、pp.1410-1413)
- 胡振华 (1999) 《生活在中亚的东干人》《中国穆斯林》1999年No. 1, pp.33-34)
- 刘正琰、高名凯、麦永乾、史有为 (1984) 《汉语外来语》(上海辞典出版社)
- 史有为 (2013) 《汉语外来语 (增订本)》(商务印书馆)
- 章一鸣、庐柏林 (1995) 《《汉语外来语词典》中的日语借词考察》(《远程教育杂志》1995年No. 5, pp.11-15)